

ぎふ専研 [岐阜商工会議所専門家研究会]

当研究会は岐阜商工会議所に登録している各専門家25名が研鑽を重ね、企業や事業支援の実践に役立てることを目的としています。主な活動は、企業経営に関する法律、税務、財務、販売、事業承継、ITなどの事例を通して各専門分野からの意見や提言を行い、企業最適化を図ることです。

【歴史(戦略)に学ぶ企業経営】

信長・秀吉・家康とタスキで繋いだ(戦国~平和)価値改革は難し、継続はなお難し



1 平和を願った家康

戦国の時代というのは、民衆にとって過酷な時期であった。農民も戦になれば戦場へ駆り出されるし、戦場はいつも「死」が隣り合わせで生死の狭間なのだ。一度、戦になれば住む村が燃や(壊)され、負ければ人質として

過酷な労働を強制されることにもなる。

経済的にも不安定で貧困を極め、収穫した米も二重、三重と年貢として没収されていた。そういった時代背景のなかで、民衆はだれもが世の「平和」を望んでいた。



中小企業診断士・社会保険労務士・販売士
大野実雄
●プロフィール(オオノ シツオ)
メーカー、経営コンサルティングファームを経て事務所開設。「変化には変化でしか対応できない」を企業支援の基本としている。著書に「売れるように売れば必ず売れる」「働き方・生き方こころの軸」等がある。

歴史的には、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康と天下人が続いた。信長が腐敗しかけていた日本の旧価値社会(戦いの世の中)を叩き壊し(破壊)、秀吉がその後を継いで新しく創造の礎を築いた(基礎・土台)。家康は、新しい時代(戦いから平和)に向けて平穏を継続するシステムを構築した(建設)。この3英傑はお互いが影響を受け合い、継続性や連続性があり最後に家康が成し遂げ、その後徳川15代に渡って平和を維持したことになる。家康は自分一代だけで終わつたなら、目立った功績ではないが、新しい社会システムを徳川15代、265年にもわたって平和な世を進化・継続させたことは特に評価すべきである。

家康が幕府を開くときに「江戸」を選んだことも「新しい価値転換」で衝撃的だったと言える。それまで1500年に渡って日本の中心は京都であった。京都には公家や天皇がいたからである。

御三家のうち、徳川宗家に男子がいけない非常時に後嗣(将軍)を輩出する役割を負っていたのは尾張徳川家と紀州徳川家であり、水戸徳川家は京都・朝廷に次期将軍を奏聞するなど朝廷との連絡役としての位置づけが大きかったとされている。

その当時の江戸は京都に比べると商売も人口も大きく見劣りしていた。京都や駿河(いまの静岡)ではなく、誰も想像できなかった江戸に幕府を開いた。

現代日本でも、天皇家の直系男子による皇位継承が断絶するのではないかとということが言われるが、徳川將軍家の歴史や近代以前の皇室の歴史を見ても、一夫一婦制を採用する場合には、直系男子のみによる地位継承の継続は極めて難しいと言える。

2 徳川幕府の後継(将軍)問題

徳川宗家においては將軍の正室・側室・愛妾を集積させて世継ぎを確保しようとする「大奥」を整備したにも関わらず、たびたび血統断絶(後嗣断絶)の危機に晒された。しかし、徳川將軍家は宗家に継ぐ家格を持つ『御三家(ごさんけ)・御三卿(ごさんきょう)』の分家から必要に応じて養子を取ることで、徳川の血統を継ぐ將軍を立て続けることができた。

3 三代続けば末代続くと言われるが...

家(企業)は三代続けて栄えれば、基礎も固まって長く続くということである。しかし、現在の企業においては、社会、市場、技術や価値観の変化は激しく、常に革新を繰り返さなければ生き残れない。1600年の関ヶ原合戦から1600年代に創業

信長	1577年	右大臣・右近衛大将	破壊・創造
秀吉	1585年	関白	基礎・土台
家康	1600年	関ヶ原合戦	建設・新価値
	1603年	征夷大將軍	
2代 ↓ 15代	1605年	大政奉還	平和維持
	1867年		継続・承継 新たな時代

した現在の老舗と言われる企業も多く残っており、その歴史を覗くと革新の連続であった(老舗とは日々の革新)。常に変化に対応して行動することが過去も現在、未来も企業存続の確かな道であろう。

歴史は、今を経営する者がより良い事業を展開するために、先人が遺してくれた経営の鑑(かたみ)でもあります。

*史実は諸説があります。本文とは異なる説もありませんのでご了承ください。
*参考文献：重門冬二著「徳川家康の経営学」 蒲生眞紗雄 著「徳川幕府の実力と統治のしくみ」 小野 清 著「江戸幕府の制度」
*イラストはイメージです。